

2022年度

さかい福祉と介護の 実践発表会

令和4年12月10日(土)

オンライン開催

主 催

堺市・関西大学・堺市老人福祉施設部会

後 援

大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会

2022年度 さかい福祉と介護の実践発表会 プログラム

令和4年12月10日(土)
オンライン開催

第1部 (13:00-13:30)

ご挨拶

堺市健康福祉局 局長 山本 甚郎

堺市老人福祉施設部会 会長 西尾 正敏

令和4年度堺市働きやすく魅力あふれる介護事業所等表彰 表彰式

(令和4年11月22日(火)実施)

【事業所表彰】

法人名	事業所名
社会福祉法人 堺福祉会	特別養護老人ホーム ハートピア堺
社会福祉法人 頌徳福祉会	特別養護老人ホーム ソルメゾン
社会福祉法人 美木多園	特別養護老人ホーム 美樹の園
社会福祉法人 五常会	ケアハウス ゆーとりあ
社会福祉法人 五常会	特別養護老人ホーム ゆーとりあ
社会医療法人 生長会	ベルピアノ病院 通所リハビリテーションセンター
株式会社 ハートフルサンク	ハートフルサンクデイ・ひしき乃湯
株式会社 ハートフルサンク	街かどデイハートフルサンク
株式会社 ハートフルサンク	ハートフルサンク桃山台
社会医療法人 ペガサス	ペガサスデイサービスセンター神石
社会医療法人 ペガサス	ペガサスデイサービスセンター石津
社会医療法人 ペガサス	ペガサスデイサービスセンター石津2号館
社会医療法人 ペガサス	介護療養型老人保健施設ベルセウス
社会医療法人 ペガサス	ペガサスヘルパーセンター
社会医療法人 ペガサス	ペガサス通所リハビリテーションセンター
社会福祉法人 風の馬	特別養護老人ホームアリオン
社会福祉法人 風の馬	ペガサスデイサービスセンター雅老園
社会福祉法人 風の馬	ペガサスデイサービスセンター石津北

第2部 (13:30-16:00)

講評:岡田 忠克 教授 (関西大学 人間健康学部)
植田 紀美子 教授 (関西大学 人間健康学部)

高齢分野

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺	本多 早希	リモート英語教室
演題2	社会福祉法人 悠人会 ベルファミリアデイサービスセンター	竹田 駿	子ども食堂について ～社会福祉法人が地域で実践するSDGsの取り組み～
演題3	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 美原荘	藤倉 英雄	美原荘での誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みについて
演題4	社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘	吉永 寿和子 尾崎 陽彦	オリゴ糖による苦痛の少ない排便コントロール ～排便における介護負担の軽減～
演題5	社会福祉法人 みささぎ会 高齢者ケアセンター 大仙もずの音	藤本 耕介 峯近 由香	認知症高齢者に優しい住まい作り
演題6	社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園	松本 裕介	ふれあいの日 ～ 観て 笑って 楽しんで ～
演題7	社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家	京口 和樹 今石 卓弥	新型コロナウイルス感染症の クラスターから得たもの
演題8	社会医療法人 ペガサス ペガサスケアプランセンター	河内 良祐	ペガサスにおける人材育成について ～海外へ羽ばたける介護職を目指して～
講 評			

障害分野

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 ライフサポート協会 みんなのマーケットるびなす	別所 徹	地域に愛される「みんなのマーケット」へ ～みんなのマーケットるびなすの取り組み～
演題2	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」	東内 宏祐	現場が考える利用者支援
演題3	株式会社GVPマネジメント 放課後等デイサービス むるくはうす	藤原 惣一	「ドキドキかふえ～たぶんこぼしちゃうカフェ～」、 好奇心と体験と集団行動のチカラ
演題4	NPO法人kokoima おめでたい作業所	小川 直樹	大学・地域と連携して、多彩な仕事づくりから 工賃アップを目指す。壺焼き芋(栽培から販売まで)
演題5	一般社団法人 児童基礎体力育成協会 文武両道の放課後等デイサービス「みらいキッズ塾」	浦井 重信	運動療育(感覚統合療法)による 視覚認知と書字機能の向上
演題6	NPO法人バーナビーカレッジ バーナビーカレッジ	西 智弘	働く意義を実感し、就労したいという 意欲を高める
演題7	社会福祉法人 堺あすなろ会 ゆめ工房	平 航介 南野 郁子	「お菓子を作る」という仕事
演題8	株式会社inC インク	梶 兼	生活訓練、オーダーメイドな支援やねん、自己実現。
講 評			

目次

《高齢分野》

テーマ：自立支援・地域との連携

リモート英語教室

1

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺

テーマ：社会（地域）貢献

子ども食堂について

2

～社会福祉法人が地域で実践するSDGsの取り組み～

社会福祉法人 悠人会 ベルファミリアデイサービスセンター

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

美原荘での誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みについて

3

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 美原荘

テーマ：排泄・入浴ケア

オリゴ糖による苦痛の少ない排便コントロール

4

～排便における介護負担の軽減～

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 槇塚荘

テーマ：認知症ケア

認知症高齢者に優しい住まい作り

5

社会福祉法人 みささぎ会 高齢者ケアセンター 大仙もずの音

テーマ：交流

ふれあいの日 ～ 観て 笑って 楽しんで ～

6

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

テーマ：人材育成・OJT

新型コロナウイルス感染症のクラスターから得たもの

7

社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家

テーマ：人材育成・OJT

ペガサスにおける人材育成について

9

～海外へ羽ばたける介護職を目指して～

社会医療法人 ペガサス ペガサスケアプランセンター

《障害分野》

テーマ：地域との連携・就労への支援・創作的活動や生産的活動

**地域に愛される「みんなのマーケット」へ
～みんなのマーケットるびなすの取り組み～** 11

社会福祉法人 ライフサポート協会 みんなのマーケットるびなす

テーマ：創作的活動や生産的活動

現場が考える利用者支援 12

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

テーマ：将来の就労を見据えた積極性「できること」、経験値「やったことある」、
チームワーク「みんなでやれる」

**「ドキドキかふえ～たぶんこぼしちゃうカフェ～」、
好奇心と体験と集団行動のチカラ** 13

株式会社GVPマネジメント 放課後等デイサービス みらくはうす

テーマ：地域との連携・創作的活動や生産的活動

**大学・地域と連携して、多彩な仕事づくりから
工賃アップを目指す。壺焼き芋（栽培から販売まで）** 14

NPO法人kokoima おめでたい作業所

テーマ：身体機能の改善

運動療育（感覚統合療法）による視覚認知と書字機能の向上 15

一般社団法人 児童基礎体力育成協会

文武両道の放課後等デイサービス「みらいキッズ塾」

テーマ：就労への支援

働く意義を実感し、就労したいという意欲を高める 16

NPO法人バーナビーカレッジ バーナビーカレッジ

テーマ：就労への支援

「お菓子を作る」という仕事 17

社会福祉法人 堺あすなる会 ゆめ工房

テーマ：地域との連携

生活訓練、オーダーメイドな支援やねん、自己実現。 18

株式会社inC インク

《高齡分野》

テーマ：自立支援・地域との連携

リモート英語教室

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺
生活相談員：本多 早希

●事業所・サービスの紹介

ハートピア堺では、特別養護老人ホームと併設在宅介護事業、地域包括支援センターを含む相談支援室が一体となり、地域包括ケアシステムの構築と命を終えることに携わる仕事に誇りを持って行動しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

新型コロナウイルスによる感染防止のため、面会やボランティアさんの来訪が制限される中、特別養護老人ホーム入所者の楽しみを見つけること、活動場所が見つかりにくくなっている学生ボランティアへの場の提供を考えた。

【具体的な取り組み】

以前より入所者の方から英語を学び、話したいと話があった。新型コロナウイルスの影響で家族様、ボランティアさんの来訪が制限されているため、直接会って学べる機会を作るのは難しい。そこで、ボランティア活動を行う機会が減っていると話していた学生ボランティアにZoomを活用し、リモートで行うのはどうか依頼する。学生が毎月テーマを決めてパワーポイントを作成し、教えてくださっている。

【活動の成果と評価】

毎月一回、継続して行うことができている。レベルが初級・中級・上級とあり、上級になると「難しいな」「分からへんな」と声もあるが、ヒントをもらいつつ回答することができている。ヒントをもらう前に答えられることが増えている。

学生からは

「パワーポイント作成にやりがいを感じている」

「学生と高齢者の方が関わる機会があまりないため、交流できる良い機会になっている」

「入所者の方が体験してきたことを笑顔で話してくれるため、楽しみながら英語以外のことも学べている」と評価してくださっている。

【今後の課題】

回答できない方がいるため、参加してくださっているご利用者みなさんに話を振れるようにする。職員のシフトの都合上、開催候補日が少ない。学生も授業との兼ね合いがあるため、時間が合いにくく、日程調整に時間がかかる。

コミュニケーションを取りたい気持ちはあるが、学生たちからクイズ以外の話題を振ってもいいのか戸惑いがある。対面でないので、自然なコミュニケーションが取りづらい。

テーマ：社会（地域）貢献

子ども食堂について ～社会福祉法人が地域で実践するSDGsの取り組み～

社会福祉法人 悠人会 ヘルファミリアデイサービスセンター
生活相談員兼介護職員：竹田 駿

●事業所・サービスの紹介

堺市中区にある定員70名のデイサービスセンター
施設内に長期入所、短期入所、訪問介護、介護支援事業所、地域包括支援センターを併設。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

地域の中核施設として、介護施設で実践可能なSDGsへの取り組み。SDGsの17つの目標のうち施設で取り組める内容を検討し子ども食堂を開催した。

【具体的な取り組み】

子ども食堂の開催に向け、自治会や社会福祉協議会に意見をもらい地域の実状を把握。地域では貧困や飢餓という問題がなく、新型コロナウイルスにより地域で集まれる場所がなくなったという事が問題となっていた。現在地域に求められている地域住民が集まれる場所としてイベント型の子ども食堂を開催した。感染対策のため対象校区を限定し事前予約制とした。

【活動の成果と評価】

第一回の開催では23組67名の方が参加された。実施内容としてはピザ窯でのピザ作り、ホットケーキデコレーション、綿菓子作り、レジキーホルダー作成等子供だけでなく大人も楽しめる内容を実施。
参加者へのアンケートの結果は「子どもの喜ぶ顔を見られて良かった」「親子で楽しめた」等と好評な意見ばかりだった。職員も普段と違う雰囲気の中楽しみながら運営することができた。

【今後の課題】

地域に親しまれる施設となるためにも定期的に開催していきたいと考えているが、現在開催頻度については未定。感染状況に応じた感染対策の徹底。現状、費用は全て施設負担のため同様の規模で継続していくのか実施規模についても検討が必要である。

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

美原荘での誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みについて

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 美原荘
機能訓練指導員：藤倉 英雄

●事業所・サービスの紹介

美原荘は「笑顔いきいき365日」をスローガンに、「困ったときの美原荘」と言ってもらえる施設づくりを目指しています。特養の入居者は120名で6つのグループに分かれています。その人らしい生活をして頂けるよう職員一丸となって、「個別ケアの充実」に取り組んでいます。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

○特養利用者の入院する原因の一つに誤嚥性肺炎がある。いつまでもお元気で過ごして頂けるよう、多種職で誤嚥性肺炎防止のため試行錯誤し取り組んだ。

【具体的な取り組み】

- 各グループで口腔ケアに問題がある利用者を数名ピックアップし、1か月間口腔ケア強化し、口腔内の様子の経過を追った
- 多種職による食事観察と評価と、嚥下専門の歯科医による診察から、より安全に摂取ができるように食事形態や水分形態などの見直しを行った
- 既存の食事形態の見直し、水分形態の追加、中スプーンの導入
- 車椅子やシーティングを見直した

【活動の成果と評価】

○歯科の診察と日々の食事摂取場面での観察から形態を見直しすることで、より利用者の嚥下状態にあった食事や水分摂取や介助ができるようになった。車椅子の調整や、車椅子上の姿勢を見直しすることで、食事時のムセやよだれが減少した。口腔ケアに関しては、口腔内の残渣物や口臭が減少した。技術面の指導もありその人にあった口腔ケアができることで、口腔ケアに対して抵抗があった利用者がスムーズに口腔ケアをさせてくれる機会も増加した。職員については、他の利用者の口腔ケアにも注意や意識が向くようになった。

【今後の課題】

- 口腔ケアの継続と定着
- 利用者にあった口腔ケアの提案（用具の見直し）
- 誤嚥性肺炎の他のアプローチの模索

【参考資料など】

- 誤嚥性肺炎 口腔ケアで防げ 西日本新聞 2019年6月3日
- 南谷さつき 嚥下と姿勢および姿勢の関係 理学療法学 2014年第41巻第1号34～39頁

テーマ：排泄・入浴ケア

オリゴ糖による苦痛の少ない排便コントロール ～排便における介護負担の軽減～

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘
看護師：吉永 寿和子／管理栄養士：尾崎 陽彦

●事業所・サービスの紹介

榎塚荘は入居73人、ショートステイ10人の計83人定員です。緑豊かな丘の上に位置し、居室からの風景がとても爽やかです。デイサービスや包括支援センター等を併設し、地域の方に安心して頂ける施設をめざしています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

頓服の大腸刺激性下剤を使用し、排便コントロールを行っていたが、水様便が多量に幾度と続き、ご本人の苦痛は勿論、介護負担の大きな原因のひとつとなっていた。そこでオリゴ糖を試してみた。

【具体的な取り組み】

1. 下剤を減らそう 2. 自然排便に近づけよう。
頓服の大腸刺激性下剤を中止。
今まで排便マイナス1日から常用薬に加え頓服の大腸刺激性下剤も内服していたが、排便マイナス3日までオリゴ糖と常用薬のみ内服に変更。排便マイナス3日で浣腸あるいは摘便とし、データ収集を行った。当初は対象者を1人選定し、2週間に1度の評価、見直しを行った。オリゴ糖の提供方法は、その方の体重に合わせて許容上限量を算出し、おやつ飲み物に混ぜて1日1回服用してもらった。効果が出すぎる場合は徐々に使用量を減らし調整した。

【活動の成果と評価】

現在累計21名の方を対象に取り組みを行った所、17名は頓服の大腸刺激性下剤を使用せず、自力で排便ができるまで改善された。また長期間かかったが、常用薬として下剤を服薬されていたが、服薬無しで排便できるようになった方も数名おられる。
その結果、頓服の大腸刺激性下剤を使用していた場合は便汚染対応に追われていたが、その回数が減り、介護負担が軽減した。また、利用者様の負担も同時に軽減され、夜間良眠されることにより、生活の質が向上したと考えられる。

【今後の課題】

対象者の中には、オリゴ糖を使用しても自然排便に繋がらなかった方、または少量の服用でも下痢を起こしてしまう方など、オリゴ糖の持つ効果をうまく発揮できなかった方が数名おられた。そういった方には今後も多職種で協議し、改善方法や、別のアプローチも視野に入れ、施設に入所されているすべての方を対象に苦痛の少ない排便コントロールができるようにしたいと考えている。

【参考資料など】

株式会社ハーバー研究所の「オリゴワン」のパンフレット

テーマ：認知症ケア

認知症高齢者に優しい住まい作り

社会福祉法人 みささぎ会 高齢者ケアセンター 大仙もすの音
介護士フロアリーダー：藤本 耕介／介護士サブリーダー：峯近 由香

●事業所・サービスの紹介

平成24年12月に開設。特養80床、ショートステイ20床、デイサービス、ケアプランセンターを併設しています。法人全体で行う社会貢献事業の一環として、平成18年より「認知症予防自立支援推進室」を立ち上げ、非薬物療法による認知症予防について、大阪大学と協同研究を実施してきました。独自メニューとして「潤能チャレンジ」「アルクダケ」「VR回想法」などを開発し、非薬物での認知症進行防止の効果が立証できています。日々のケアにおいては、認知症ケア「ユマニチュード」を取り入れ、職員のケア技術の向上に努めています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

テーブルとイスだけの殺風景なフロア・すべて同じに見える居室が施設の課題でした。終の棲家と言える老人ホームで利用者さんに心地よく生活して頂くことを目的として、家庭的なフロアや1人1人に合わせた個性的な居室に作り変えることに取り組みました。

【具体的な取り組み】

テーマに沿って3つの目標を設定しました。

- ①その人らしい暮らしの継続（環境の整備・掲示用のボードの設置・のれん作り）
- ②自己選択・自己決定（衣類管理の改善・余暇スペースの改善）
- ③残存機能の活用（フロアを食事スペースと余暇スペースに分ける）

【活動の成果と評価】

- ①飾っている写真を見て、昔を思い出され話されることが多くなった。
個性に合わせた居心地のいい居室環境で暮らせるようになった。
- ②利用者自らが着たい洋服を選び、過ごしたい場所・やりことを選べるようになった。
- ③家事仕事などを行うことで自然と身体を動かすことができた。居室から出てきてもらうことができた。

【今後の課題】

- ・完成した環境の継続した運用とさらなるアップデート
- ・個々の利用者の状態変化に、環境も柔軟に合わせていく。

【参考資料など】

認知症高齢者への環境支援のための指針 PEAP 日本版3（出版元：ケアと環境研究会）
ケアワーカー用ガイドブック 認知症機能の視点による実践介護
（出版元：社会福祉法人みささぎ会H22年1月発行）

テーマ：交流

ふれあいの日 ～ 観て笑って楽しんで～

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園
介護職（フロア主任）：松本 裕介

●事業所・サービスの紹介

堺市の南部に位置し、泉北・光明池ニュータウンが隣接。湖畔に建ち四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境です。特養・老健・グループホームの3施設があり、各施設で通所サービスとショートステイを行っています。その他ケアプラン作成と、高齢者に住居をご用意する事業も実施しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

ふれあいの日とは年一回、法人内の全職員が一丸となって行う行事企画。コロナ禍であっても、ご利用者、ご家族と交流できる楽しい行事企画を考える。

【具体的な取り組み】

職員による出し物や目標達成に向けてチャレンジする動画を、ご利用者・ご家族向けにLIVE配信し、施設や家庭で視聴し楽しんでもらう。

- 各施設による出し物 老健…ピクトグラム、ひげダンス
GH…だんじり囃子、ラインダンス
特養…おもしろ相撲、ひょっとこ踊り
3施設合同…笑楽点
- チャレンジ内容 老健…カラオケで95点以上を取る。
GH…ボウリングで3連続ストライクを取る。
特養…釣りで50cm以上の大物を釣る。

【活動の成果と評価】

動画配信という新しい形で、職員の元気な姿と笑顔になれる機会を、ご利用者・ご家族に届けることができた。施設内で動画を視聴していたご利用者の中には、職員による出し物やチャレンジする姿を画面越しに観て、声を出して笑ったり、拍手で応援してくれている姿があった。後日、動画を視聴されたご家族より「よかったよ」「頑張ってたね」との声をいただいた。

【今後の課題】

動画配信中に音声や映像の乱れ、映像が止まってしまう等の通信障害があった。安定した配信が行えるように配信環境を工夫・整備していく必要がある。動画配信による行事企画では一定の成果を上げる事ができたので、今後はLIVE配信の特性を活かして、中継先と視聴者が離れていても繋がっていると感じられるような工夫を行っていききたい。
コロナ禍であっても前向きに、コロナ禍だからこそ行える新しい行事の形を創意工夫し、チャレンジしていきたい。

テーマ：人材育成・OJT

新型コロナウイルス感染症のクラスターから得たもの

社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家
リーダー：京口 和樹／介護職員：今石 卓弥

●事業所・サービスの紹介

法人は創立104年の歴史があり、高齢者福祉活動は平成8年より「安心と安全・愛と和・優しさ・笑顔」をモットーに26年が経過しました。特別養護老人ホームを基本に通所介護事業、居宅介護支援事業を展開しております。近頃は地域住民との交流の機会が増え、合同での地域イベントが開催できるようになりました。

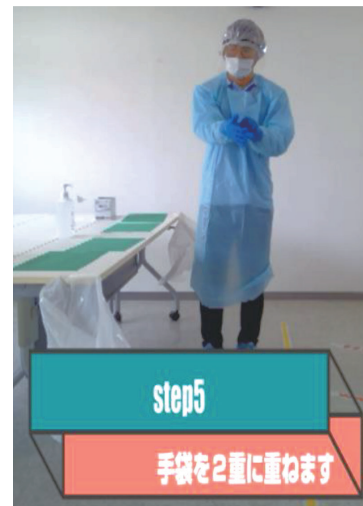
●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・新型コロナウイルス感染症第6波（令和4年2-3月）でクラスターになったことより「ガウンテクニックができていなかった。」「指示命令系統ができていなかった。」という2点を反省点としました。今後予測される第7波において感染拡大を防ぐことができるように取り組むに際し、IT活用することを踏まえ、業務内での感染予防並びにチームケアの向上に取り組みました。

【具体的な取り組み】

- ・「ガウンテクニックを全員が習得できる。」「指示命令系統を確立する。」ことをめざし、IT（スマートフォンや動画での学習）を取り入れることにしました。その理由はクラスターの間はスタッフ間の距離をとることが必要とされること、また、当法人にはベトナムからの職員もいるため、言語の理解度に問題がある中で正確な情報を伝えていくには画像や動画を活用した情報伝達を進めていくことが必要と判断しました。IT化を取り入れたことで、情報伝達の効率化を図ることができ業務改善につながりました。



【活動の成果と評価】

- ・ガウンテクニックの研修では、リーダーがモデルとなり着脱動作の動画を撮影し、その動画を職員に見てもらいました。次に各職員がガウンテクニックをしているところを自身のスマートフォンで撮影し、間違っているところや指導されている内容もすべて録画しました。研修後にも自分の癖や理解できていなかったところを振り返ることができました。また、研修に参加できなかった職員には自分の動画を見せながら説明することでフォローしました。ある職員は家族にも自身が撮影した動画を見せて清潔部分・不潔部分の区別を伝えることにより振り返りを実践することができた職員もいました。
- ・指示命令系統についてはグループラインを使用し、リーダーから指示されたことを文書で確認できるようになりました。業務内では班会議で、会議の次第を先にグループラインで共有することで次の会議では何を話し合いするのか（報告内容・検討課題）を参加職員が把握することができるようになりました。また、職員会議もパワーポイントをスクリーンに投影することで、職員が下を見ずに前を向いて会議に参加できるようになり、司会をしている職員が参加職員に向かって意見を求めやすくなり、発言も多くなってきました。また、もう一つのメリットは会議の資料を印刷する手間とコストが省け業務負担が軽減しました。



評価：



- ・ガウンテクニックを学ぶことで、清潔部分・不潔部分の概念を理解できたことは、他の感染対策にもつながるものになりました。また、感染対策委員からの指示にて利用者発熱時初期対応方法の周知や対応時の必要物品も準備されており、感染拡大を防止していく心構えもできてきました。
- ・指示命令系統についてはラインやパワーポイントを使用したことで、業務内の問題や課題、ケアの方法などが、可視化されることで、お互いの意見を出し合うことができるようになり、共通の認識を持てるようになりました。特に口頭のみでは伝わりにくいベトナムの職員にも正確に伝わるようになり、職員間の負担が軽減しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の第7波（令和4年7-8月）では、熱発者が出た時の初動対応で指示を確実に受けることができ、ゾーニングを素早くできるようになりました。その結果、感染を拡大させることなく経過することができました。

【今後の課題】

- ・新型コロナウイルス感染症に関して感染拡大防止を継続しておこなえるように定期的に意識付けをしていくことが必要。
- ・今はまだ始まったばかりであるので、ITを活用していくことで、より業務が改善されることはないかを検証を続けることが必要。

【参考資料など】

- ・厚生労働省「介護職員のための感染対策マニュアル」2022

テーマ：人材育成・OJT

ペガサスにおける人材育成について ～海外へ羽ばたける介護職を目指して～

社会医療法人 ペガサス ペガサスケアプランセンター
主任介護支援専門員・介護福祉士：河内 良祐

●事業所・サービスの紹介

馬場記念病院を母体とした救急医療を中心に、施設サービス（介護療養型老健・特養 等）や在宅サービス（居宅介護支援・訪問看護・訪問介護・通所サービス等）・サービス付高齢者住宅を36カ所、障害福祉サービス事業が6カ所、保育サービス事業が4カ所 等多岐に渡る事業を運営しております。また、公的機関や地域の事業所と連携を図りながら、保健・医療・福祉・介護・保育を総合的に提供しております。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

現在、グループ全体における介護職員数は、約330名となっております。しかし、経験の違いや様々な事業種別に分かれている事も有り、施設・事業所で教育体制や内容に違いが有りました。また、海外からの介護技能実習生の受け入れに際して、介護技術 等の指導方法が課題となりました。

その為、グループ全体の多職種が連携して、「医療が分かる介護職員」を目標として、介護職員に対する教育体制の統合・確立だけでなく、更なる質の向上を目指すことになりました。

【具体的な取り組み】

介護職（各事業所から1～2名の役職者）・看護師・理学療法士・作業療法士で構成される「ケア委員会」を発足。会議では①質の向上に向けた話し合い・取組の検討 ②介護マニュアル・人事考課表・研修内容の見直し（感染症や医療安全に対する教育 等）③現場指導の共有を行い、グループ内で共通した介護マニュアル・教育手帳 介護職版（ポケットマニュアル）・職業能力評価シートを作成。研修や実務者研修の管理・運営体制を確立。医療専門職種による、介護現場での技術指導。法人内・外における様々な資格取得支援や学会発表などの運営。介護技能実習生における指導者選定・情報の共有などを行いました。

【活動の成果と評価】

これまで教育方法に差異が有りましたが、グループ共通にした事で①新入職者からベテランまで目指すべき指標の明確化 ②エビデンスに基づいた介護技術の習得 ③多職種間での連携力の向上 ④資格取得による別途手当支給 ⑤技術向上による賞与査定への反映 ⑥海外への講師派遣によるステータスの向上など、様々な改善・効果が見られました。

【今後の課題】

今後介護職のキャリアマップとして、マネジメント・スペシャリスト・ゼネラリストといった全体像を検討していますが、具体的な運用までには至っていないので早急に確立させる必要がある。またより一層、介護職の質の向上・地位向上・人材定着に向けて取り組んでいきたい。

《障害分野》

テーマ：地域との連携・就労への支援・創作的活動や生産的活動

地域に愛される「みんなのマーケット」へ ～みんなのマーケットるびなすの取り組み～

社会福祉法人 ライフサポート協会 みんなのマーケットるびなす
管理者兼サービス管理責任者：別所 徹

●事業所・サービスの紹介

みんなのマーケットるびなす・就労継続支援B型

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・①高齢者をはじめとする買い物困窮者の支援と②障がい者の就労支援と③商店街（泉北ニュータウン近隣センター）の活性化という3つの課題を閉店したスーパーを再興する事で解決する。
- ・堺市の「公募提案型協働推進事業」に応募し、「みんなのマーケットプロジェクト」として採用される。その後、堺市、地元のNPO法人、自治会、社会福祉協議会、堺市市場連合会、ライフサポート協会が協働し「たかくら福祉共生ステーション事業」として、上記の課題解決に取り組む。

【具体的な取り組み】

- ①曜日別の野菜市や鮮魚市の実施。弁当惣菜、野菜、日用品の宅配等を無料で行うサービス。惣菜や弁当の開発。
- ②品揃えの工夫。惣菜の開発、訓練。野菜の袋詰め受注。施設外就労の実施。
- ③「高倉台マルシェ」や「曜日別のイベント」の実施。近隣センターの活性化を図り、自治会、小学校、社会福祉協議会、堺東高校、商店会と連携して行う、「イースターイベント」「ハロウィンイベント」の実施。

【活動の成果と評価】

- ①2015年8月の開所当時、月間売上が30万円程度であったが、2021年には、月間売上が100万円を超える。
- ②開所当時のメンバーは4名ほどで平均工賃が、5000円程度であったのが、2022年9月には、20名ほどで平均工賃は、10,000円以上となっている。
- ③「高倉台マルシェ」は徐々に集客が課題となったが、「イースター」や「ハロウィン」イベントは恒例となり、多くの子どもたちが参加するイベントになっている。

【今後の課題】

- ①高倉台近隣センターの再開発に伴い、スーパーを堺市ニュータウン再生室主導の元、誘致。一般のスーパーと対抗するのは難しいと考えており、業態変更が余儀なくされている。また、店舗周辺の構造の変更により、既存客の来店が難しい状況が予想される。
- ②更なる工賃の向上を目指している。障がい年金と工賃を合わせて、自立生活を行う事ができる事を目指している。今後さらに農福連携を進め、施設外就労を行い、地域の農家を支援しながら、この仕組みを確立する。ジャムやジュース等の加工品を製造し、販売する。それを通して、食品ロスの低減に貢献しながら、地域の特産品に育てていく。その為の、設備や製造ノウハウ等を身に付けることが課題。
- ③更なる地域の連携と近隣での社会的な資源となる為に、「困りごとお助け隊」の様な活動を行い、地域への貢献と工賃の向上を同時にかなえる事業等を行う。

テーマ：創作的活動や生産的活動

現場が考える利用者支援

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

支援員（生活介護）：東内 宏祐

●事業所・サービスの紹介

紬「あけぼの」は、平成30年4月に開所。太陽の光がたくさん入り、ワンフロアの明るい施設。18歳から20代前半の利用者30名ほどが通う生活介護事業所。室内では型染めでの商品づくりやレクリエーション、PT体操・歩行タイムを行い、身体を動かす機会を設ける。外出では散歩に出かけ季節を感じる機会やコロナ前はショッピングモールで買い物や昼食を食べて楽しむなど施設の外へ出て様々な体験をする。その他、施設内でも1年を通してたくさんのイベントが開催される。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・今までとは違う日中活動を考える
- ・コロナ禍でもできる支援・イベントを企画する
- ・筋力維持、低下しないようにするにはどのような支援が必要なのか

【具体的な取り組み】

- ・『選べるランチ会』を企画し、利用者の方にどのお店のご飯を昼食に召し上がりたいか選んでもらう。
- ・施設内でできる企画を提案し、コロナ禍でも楽しみをもって通所して頂けるような取り組みを考える。
- ・『作業中にできること』を見直し、できるだけ筋力が低下しないような工夫を考える。

【活動の成果と評価】

コロナで外出や活動が制限された中でも、利用者が通所を楽しみにして頂ける企画を、現場職員で意見を出し合い、話し合いを繰り返し行うことで、『利用者にとってより良い企画』を見出すことができた。また実行した企画に関しても『利用者と一緒に楽しむ』を心掛け取り組むことができた。1つ1つのイベントを実行することにより、利用者にとって、『何が楽しみなのか』利用者は『何を求めているのか』と現場職員も考えるようになった。

【今後の課題】

現状に満足することなく、『利用者にとって、現場職員ができること』を考え続けることが、現場職員のスキルアップにつながるため、今後も続けていくことができるような環境を作る。

テーマ：将来の就労を見据えた積極性「できること」、経験値「やったことある」、チームワーク「みんなでやれる」

「ドキドキかふえ～たぶんこぼしちゃうカフェ～」、 好奇心と体験と集団行動のチカラ

株式会社GVPマネジメント 放課後等デイサービス みらくはうす
管理者：藤原 惣一

●事業所・サービスの紹介

将来、愛される子どもに育ててほしい。混乱や欠乏のない人生を歩んでほしい。その為に「いま何ができるか」を考えることを支援の土台に置いています。高校卒業後、一般社会で積極的にチャレンジできるよう、少しでも人生を楽しめるためにできるだけ本物の経験を提供しようと心掛けています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

仕事への意欲、貢献・できる事の喜び、本物の仕事を疑似体験、好奇心と真剣さ、助け合うこと、役割分担、セルフコントロール、集団のチカラによる行動の安定化

【具体的な取り組み】

最初は、お迎えに来てくれる保護者さまに感謝を表わそうと、ドリップ珈琲を作り始めました。椅子に座ってくださる保護者さまが来て、子どもたちも嬉しいです。そこから、いらっしゃいませ「ゴッコ」が始まりました。
器具を用意する係、お湯を沸かす係、ドリップする係、ミルクを温める係、カップに入れる係、注文を聞く係、配膳する係が現れ、緊張感と協力の心で各役割をこなします。待つことも大切な役割です。開始前は9つの挨拶も一緒に唱和するようになりました。挨拶をリードする係（店長）も現れました。最後は飲みたい子も甘い珈琲を飲むことができます。

【活動の成果と評価】

子どもたちには仕事であることを繰り返し伝えることで集中力と自分の居場所・役割を知っていきます。集団行動によって周りの子が自己中心な行動を自制するようになります。熱いお湯を扱うときの緊張感、年長者への尊敬、やったことのない事への興味とチャレンジ精神、周囲のチカラによって「自分もやれるかも、やりたい」という気持ちが高まります。自尊心・達成の喜び、強く大きく成長してゆきます。大人側も配膳の時にこぼすのではないかと緊張感がたまりません。同時に温かい応援の心が湧いてきます。ドキドキカフェ、クセになります。

【今後の課題】

- ・実践活動の場の創出（地域社会への参画方法）
- ・利用児童に応じたより詳細な支援目標の設定
- ・就労実態を想定した場面演出の研究

テーマ：地域との連携・創作的活動や生産的活動

大学・地域と連携して、多彩な仕事づくりから 工賃アップを目指す。壺焼き芋（栽培から販売まで）

NPO法人kokoima おめでたい作業所
介護福祉士：小川 直樹

●事業所・サービスの紹介

<おめでたい事業所の重要なミッション>

2017年8月堺区香ヶ丘町に開所し、地域生活を体感できる場づくりを重要なミッションとしている。

1. 働く場、仕事、障害特性をまちに開く活動 2. メンバーさん（利用者）と共に決めるミーティング 3. まちのイベントへの参画

●発表の要旨

[取り組んだ課題]

コロナ禍で2020年以降、事業所全体（リユースショップ、カフェ、作品販売）の生産収入が落ち始めた。対策として①テイクアウトできる商品②作品を自社販売できる場所を模索するなかで焼き芋とアトリエ&ギャラリーふくもちを開設した。作業内容を多彩にしたことで、工賃をアップすることができた。今回は、まだまだ道半ばではあるが、メンバー達とともに「行列のできる壺焼き芋屋」を目指して現在進行形で実践していることを紹介する。

[具体的な取り組み]

2021年冬に壺を購入しメンバー達と試行錯誤を重ねながらさつま芋と壺焼き芋についての知識を深め販売を開始した。関西大学の学生やまちの職人さんに協力いただき、移動販売用のリヤカーを完成させた。冬になると売り上げが順調に伸びるも、外での作業になる為寒さの問題（夏は暑い）、冬になると壺が寒気の影響で暖まりにくい等の問題等が発生した為2022年5月にガレージを店舗に改装し壺焼き芋「ここいも」をオープンした。担当のメンバー達と話し合いを重ねながら必要な作業等の見直しは随時行い、新たな事業として壺焼き芋の仕事が確立していった。2022年冬から河内長野市加賀田にて約100坪の畑を借りてさつま芋の栽培を行った。全員が初めての農業体験の中、河内長野の地元の方々にも協力をいただき現在約400本の苗から収穫作業を行っている。さつま芋はキュアリングと熟成方法が重要でありその方法と場所に苦慮していたが、築100年以上の歴史がある蔵を借りることができ関西大学環境都市工学部建築学科の先生と大学院生、卒業生にも協力をいただき蔵の中に「キュアリング庫」を建設しキュアリング処理を実践中である。

[活動の成果と評価]

さつま芋や壺焼き芋について自分達で調べ、より美味しい焼き芋を食べてもらいたい、いつかは行列のできる焼き芋屋にしたい等の想いが強くなりメンバー達の仕事のモチベーションアップに繋がっている。新しい店舗ができてからは地域の方がお店でくつろがれるようにもなり、地域の方との触れ合う機会が増え、店舗がコミュニティーの場として機能しつつある。平均工賃の上昇にも繋がり、2020年4月～2021年3月14,180円、2021年4月～2022年3月16,110円。今年度上半期平均工賃は大幅にアップしている。

[今後の課題]

さつま芋の自家栽培も初めての体験であり課題もたくさんあるが、今後2年間は経験を重ねながらより美味しい焼き芋づくりを目指してトライ&エラーの精神でチャレンジを続けていく。

テーマ：身体機能の改善

運動療育（感覚統合療法）による 視覚認知と書字機能の向上

一般社団法人 児童基礎体力育成協会 文武両道の放課後等デイサービス「みらいキッズ塾」
児童発達支援管理責任者：浦井 重信

●事業所・サービスの紹介

文武両道の放課後等デイサービス「みらいキッズ塾」
発達障害、発達性協調運動障害、知的障害、学習障害がみられる児童生徒に対する療育として、
認知機能の向上を促す運動、ビジョントレーニング、ソーシャルスキルトレーニング、学習支援を
提供しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

書字の向上を目的とした視覚認知の向上と微細運動の向上

【具体的な取り組み】

初回検査として点描写教材などで書き写す作業と眼球の動きをチェックします。書き写す作業はその過程での体幹の保持や上肢、手根部の使い方などもチェックして評価します。
具体的な機能向上を促すプログラムとしてはバランス感覚を育む運動、ボディスキーマ（無意識的に知覚している身体各部の空間的關係、身体図式）・ボディイメージを育む運動、眼球の動きを向上させる運動などの運動と発達段階に適した書き写し課題に取り組むことが主となります。

【活動の成果と評価】

書字に課題がある児童の約7割に初回検査で行った書き写し課題を数カ月後に行った際に、書き写しの正確さとスピードの向上が見られ、他の運動や日常動作においても姿勢保持力の向上が見られました。特に効果が確認できたのは知的なハンディが少ない発達障がいには分類される学童期の子どもで、反対に知的なハンディが大きい場合や、12歳以上の子どもには短期的には効果が少ない傾向でした。ただ、力の調節に関する項目は全体的にあまり向上しておりませんでした。

【今後の課題】

力の調節や距離感の把握などに関与するボディスキーマの向上を目的とした運動の改良。
発達に課題がある子どもたちの発達を促す運動ができる環境を整える。
発達に課題がある子どもたちの運動環境を増やすためには、より多くの人を対象となる社会課題とマッチングさせることが有効であると考えられます。例えば、これらの子どもの認知機能の発達を促す運動は、中高齢や高齢者の認知機能の低下を予防することにも役立ちます。このようにマイノリティの社会課題とマジョリティの社会課題を一緒に解決できうる提案を行うことで、障がい児に関する社会課題のようなマイノリティな分野の改善が進むと考えられます。よって、中高齢や高齢者を含めた多くの方々には有益な認知機能の発達または低下予防が期待できうる運動を提供している場所、及び指導者を増やしていけるよう取り組んでまいります。

テーマ：就労への支援

働く意義を実感し、就労したいという意欲を高める

NPO法人バーナビーカレッジ バーナビーカレッジ

施設長：西 智弘

●事業所・サービスの紹介

主に若年障がい者を対象に自立訓練（生活訓練）と就労移行支援を一体的に行います。一般大学生と同じように4年間で学び、様々な経験を通じて成長していただける場です。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

就労経験の無い20歳くらいの若年障がい者に、仕事の意義をどう実感し、就労をしたいという意識を高めてもらうかという課題。

【具体的な取り組み】

天候が厳しい日であっても就労支援の一環として毎日休まずポスティングを行っている。そこから、きちんと仕事をする事の大切さを学び、その労働からお金（工賃）を得て自分の好きなことに使うという一連の実地的な経済活動を通じて仕事の意義を実感し、就労への意識を高める。

【活動の成果と評価】

就労経験が無い若年障がい者に、1日1時間前後の仕事ではあるものの、実際に働きお金を得ることを実感することで、就労に向けての意識が高まっていると感じる。

【今後の課題】

各人の能力に応じた作業を拡大させる為の個別的なアプローチ。

テーマ：就労への支援

「お菓子を作る」という仕事

社会福祉法人 堺あすなろ会 ゆめ工房
管理者：平 航介／支援員：南野 郁子

●事業所・サービスの紹介

東区草尾にある就労継続支援B型の事業所です。定員12名・利用者12名、20歳代から60歳代まで幅広い年代の方にご利用いただいています。主な活動は菓子の製造販売の他に、下請作業（検査キットの袋入れ）を行っています。平成17年（2005年）よりお菓子作りを開始し、現在に至っています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

菓子製造・販売を通して、利用者さんの働く場を提供し、かつ、安定した工賃を支給させていただくために、利用者ご自身の作業役割を具体化してお伝えし、作業に責任感を持って取り組んでいただいています。

また、市場商品にはない、製品自身のクオリティーを上げていくために、材料、包装の見直しを行い、売り上げアップへと繋げていきたいと思い、菓子製造を始めることになった経緯も含め、これまでの取り組みについて発表させていただきます。

【具体的な取り組み】

- ・出張販売を想定したロールプレイ（利用者に販売員・お客様になってもらい、事業所内で模擬販売を行う）
- ・毎日の発声練習（こんにちは。お待たせしました。ありがとうございました。他に、商品価格の復唱を行う）
- ・販売への同行（地域中学校・公的機関等）
- ・納品時・販売終了時の在庫確認・会計照合
- ・利用者自治会での意見交換（季節の新製品について 等）
- ・シフォンケーキ個包装の練習 等

【活動の成果と評価】

挨拶・身だしなみ・言葉遣い等、販売活動を通して、基本的なマナーを自然な形で習得することができました。「製品を作って、それを販売し、収入を得る」という流れに利用者の皆さんに携わっていただくことにより、利用者さんの「仕事」に対する目的意識はより明確なものへとまりました。お菓子を作って地域へ販売させていただくことで、自然と地域とのつながりを持つことができ、事業所をより多くの方にご利用いただけたことが大きな成果となりました。より多くのお客様に商品を手に取っていただけるように包材等の見直しをすすめています。

【今後の課題】

商品のブランド化・今まで特化したものはなかったため、利用者の安定した工賃を確保するためには他にはない商品を生み出さなければなりません。菓子製造に従事している利用者さんの中には50歳代の方も多くいらっしゃるため、利用者さんの身体的負担にならないように配慮しつつ、売り上げ確保に努めていきます。

テーマ：地域との連携

生活訓練、オーダーメイドな支援やねん、自己実現。

株式会社inC インク

管理者：梶 兼

●事業所・サービスの紹介

生活訓練事業所「インク」は、障害がある方へ今後の自分らしい暮らしと一緒に考え、自己実現に向けた様々な選択肢やプログラムを提供しています。インクの4つの柱：①自立に向けて“できそう”から“できる”に変えていくサポート②将来へのステップアップに向けての選択肢③自分と他者への理解を深める交流時間④新たな自分の発見や自信へとつなげる地域貢献活動

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

インクでは、生活訓練事業のことを何も生活スキルのことだけを訓練するのではなく、その人が求める幸せな暮らしやありたい自身の姿をめざすために応援する事業だと捉えています。ひとりひとり思いや描く未来図は違うため、できる限りその人に合ったオーダーメイドな支援を心掛けています。有期限の事業のため、利用者にとって有意義になるようスタッフも必死のバッチです。今回は、利用者Aさんの自己実現していったストーリーをご紹介します。合わせてインクの特色である地域の方と障害のある方がつながっていきお互いの幅が広がる様子もお届けします。事業を通して、「障害あるなし関係ないまちづくり」にチャレンジしています。

【具体的な取り組み】

不安障害のあるAさんに対して生活訓練ならではの支援ストーリーを紹介します。
①導入期：インクへ通所することに慣れていくための支援。本人が居場所と実感できるようなサポートを実施。②定着期：インク環境に慣れていき、様々なことの経験を積み上げることで自分自身の気づきを得ていく。将来、自分がやりたいことのイメージがスタッフとすり合わせしていくことで徐々に見えてくる。③移行期：今までインクで深めていった自分自身の特徴や得意なことを踏まえ、自分が希望する生活とそれに向かって次のステップが何か考えることができ、将来の目標が明確化される。※Aさんは途中でデザインの就労に興味をわきます。地域の自治会・子ども食堂等のチラシデザインを請け負い、経験と手ごたえを獲得していきます。

【活動の成果と評価】

- ・利用者がインクで居場所を見つけ、安心感を得て少しずつ自己肯定感を上げていった。
- ・利用者がインクに通い、様々な経験をしていくことで、自分自身の気づきを積み上げていくことができた。
- ・自分のチャレンジしたいことが見付き、将来の目標が明確化された。
- ・地域の方々の自分達だけでは難しかったことやしたいことが、インクとのコラボによって実現できた。
- ・地域の方々と利用者が活動を通して直接交流することで、障害理解も進み、お互いの信頼関係ができた。

【今後の課題】

障害があってもその人が活躍できる場は地域の中で沢山あるのだと思います。もっと多様な方々とつながり合うことでお互いの選択肢が広がりますし、インクで言えば障害がある方の自己実現の可能性も広がります。

2022年度
さかい福祉と介護の実践発表会 抄録

発行
堺市 健康福祉局

長寿社会部 長寿支援課
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1
TEL : 072-228-8347
FAX : 072-228-8918
E-mail : choshi@city.sakai.lg.jp

障害福祉部 障害支援課
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1
TEL : 072-228-7411
FAX : 072-228-8918
E-mail : shoen@city.sakai.lg.jp